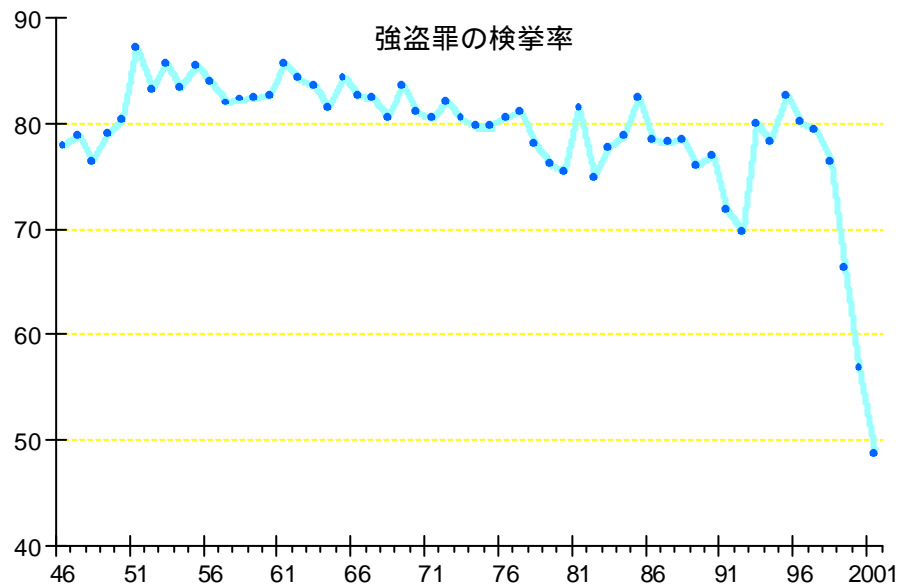
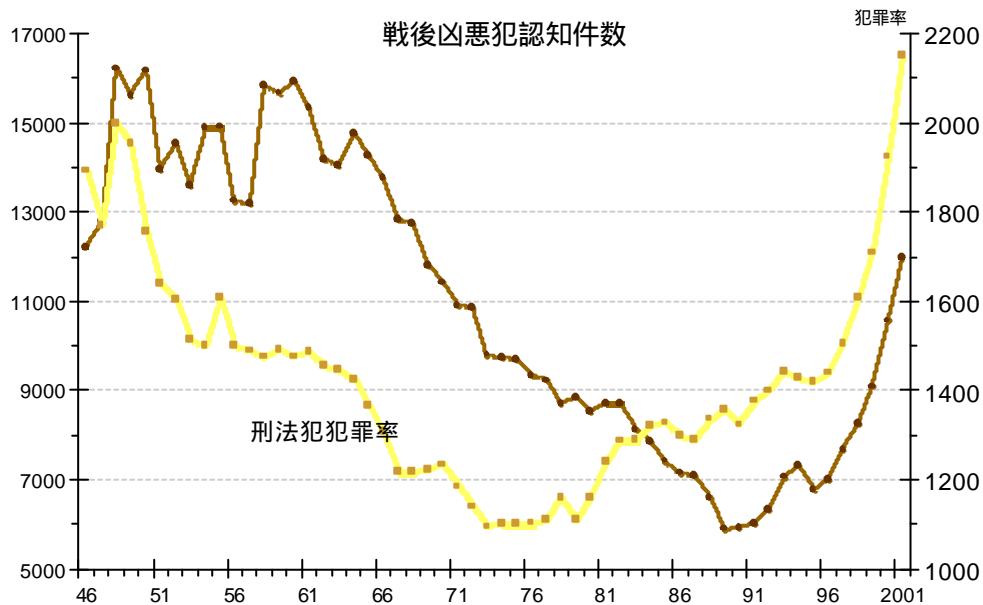


最近の少年犯罪の増加について

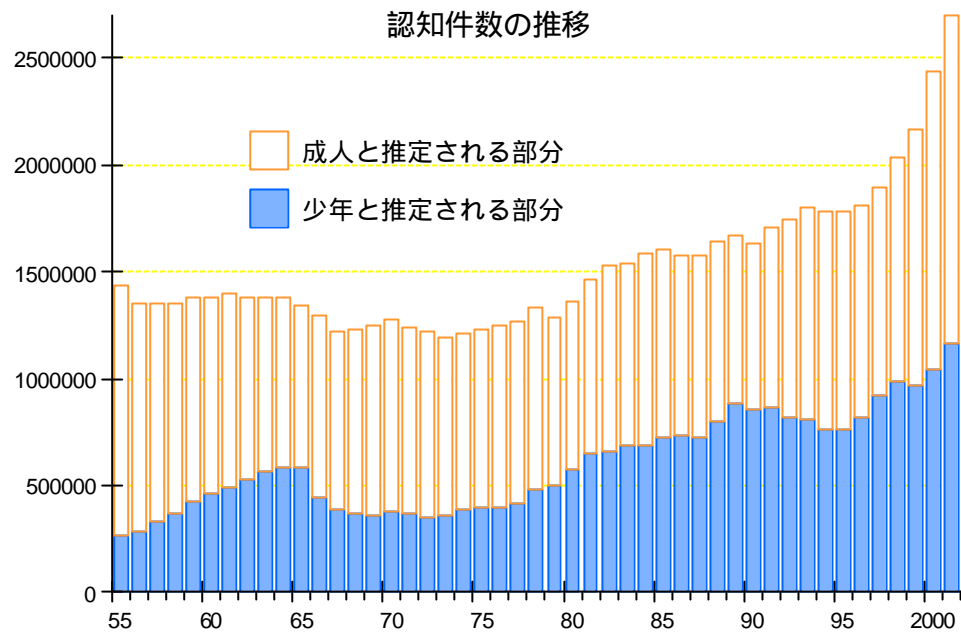
東京都立大学法学部教授 前田雅英

1 カーブを切った日本の治安状況

- ・治安の良かった国日本
- ・有罪人員も刑務所人口も減り続けた・21世紀は増加の時代
 溢れる刑務所 パンクした裁判所 留置場不足
 検挙率の惨状 事件数に対して警察官が足りないから
- ・最近の犯罪状況そのものの変化 10年間の異常な増加率(重い犯罪も含め)
 増加の表面上の原因: 少年犯罪と外国人犯罪の増加 留置場問題
- ・実は刑法犯全体としてみると1970年代が転換点 ・ ついに成人犯罪が増えだした

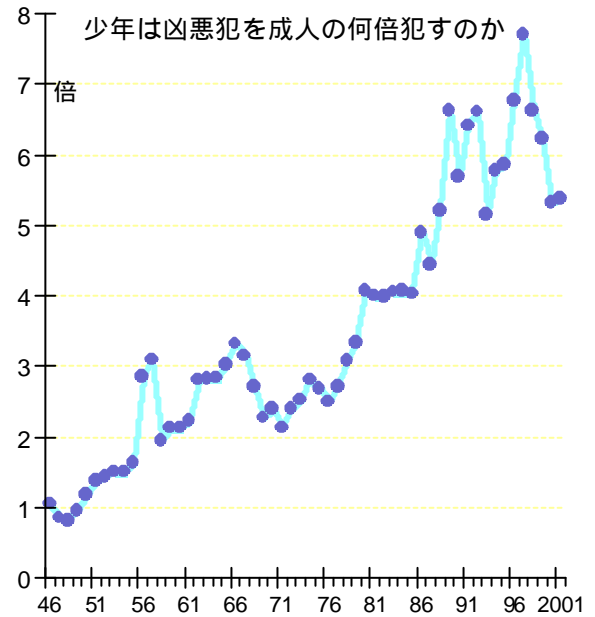
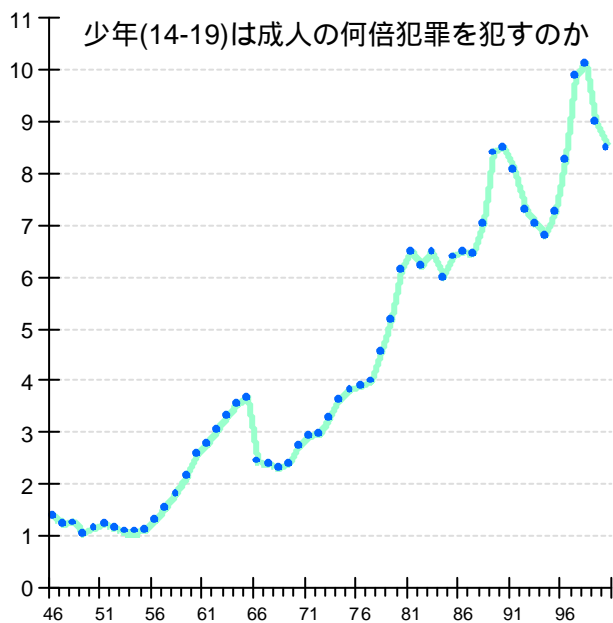


2 犯罪増加の主役は少年犯罪であった



・ 検挙率の低下による錯覚

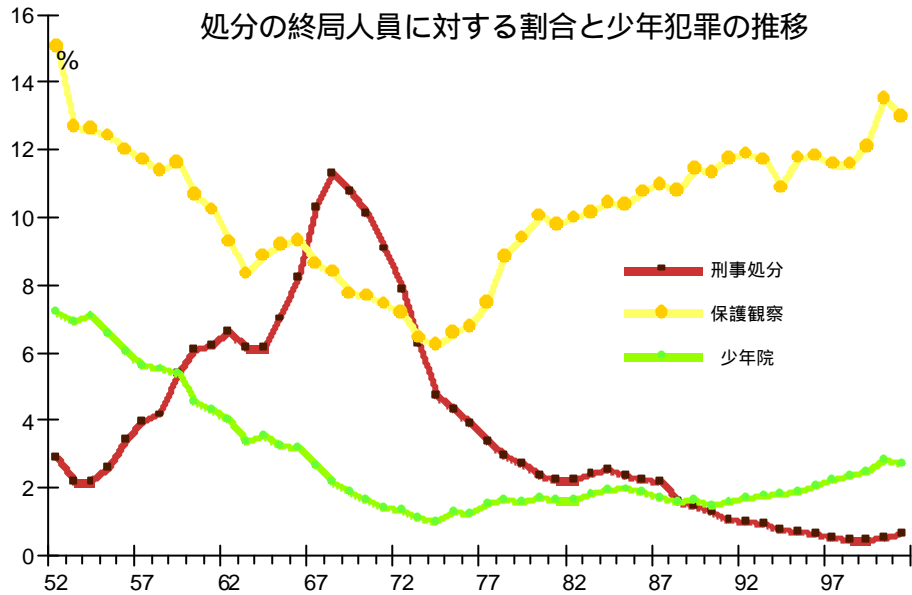
補導現場の実感



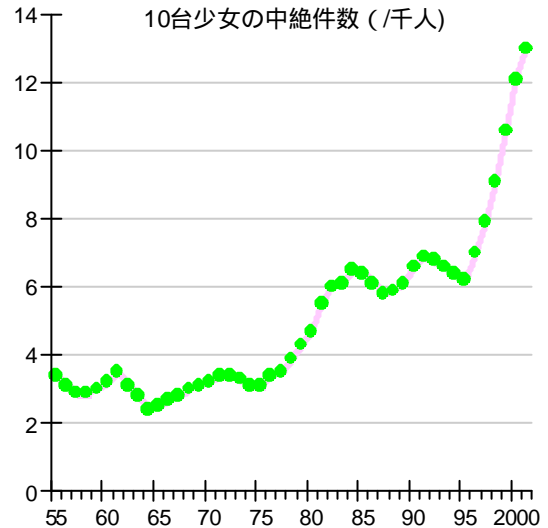
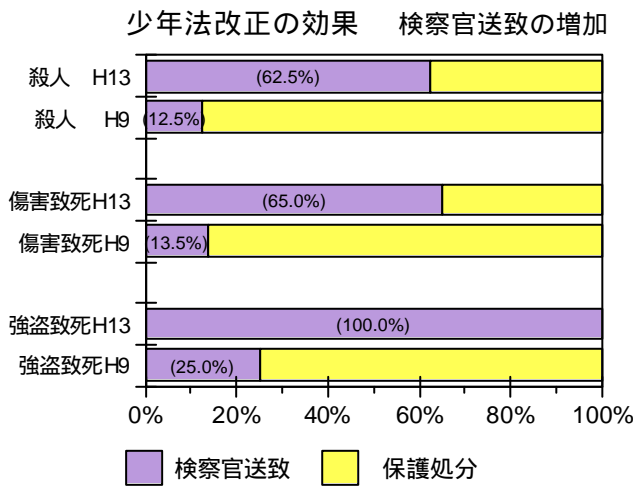
- ・ 検挙者の約半分は少年。
- ・ 少年犯罪の実像：検挙率の変化による錯覚
- ・ 年長少年ではなく年少・中間少年
- ・ 少年は、成人の8倍の割合で犯罪を起こすようになった
- ・ 強盗罪・傷害罪・恐喝罪・強制わいせつなどの少年検挙人員率上昇
- ・ 地域差の減少

3 少年司法の運用の問題性

- ・ 4分の3は、審判不開始・不処分 * 少年警察の弱さ
- ・ 処分の大半は保護観察 保護司の高齢化



- ・ 学園紛争時の消極的的少年刑事政策 アメリカの影響
 く犯は適用されない+保護処分も行わない
- ・ 少年法改正の効果



* 少年は被害者 犯罪者は病人
 法律家と医者：「殺人の再犯の危険があっても直る可能性があれば開放療法」

* 家庭裁判所内部の力関係：家裁調査官の力

- ・ 総合的対策の必要性 平成14年警察白書
 犯罪の凶悪化より、「何が悪いことかわからない少年」の増加が最大の問題
- ・ 教育現場の意見：「既に教育の問題を超えてしまった」 文科省の研究会
 北風より太陽？ そのコストを支える社会的力が残っているのか